

令和8年(2026年)熊本地震

速報 (Ver.2)

令和8年8月24日

基礎地盤コンサルタンツ株式会社

島原市眉山の斜面崩壊

はじめに

令和8年7月28日16時27分頃、熊本地方を震源とするM7.1の地震が発生しました。この地震で熊本県宇城市並びに氷川町で震度7を観測し、多くの家屋が倒壊する等、内陸地震特有の被害が発生しました。その後、震度5弱をはじめとする余震が頻発しましたが、次第にその数は減少しつつあります（8月18日時点）。

弊社では地震直後から被害調査を開始しました。現在も調査を継続中ですが、被害の実態を知っていただくため、速報の形で公表することと致しました。調査の進捗に伴って内容を追加・更新していく予定です。なお、速報に付したコメント等はあくまで簡単な計測や目視観察に基づくものであり、詳細な計測に基づく見解ではありません。

最後になりましたが、この地震でお亡くなりになりました皆様のご冥福をお祈りするとともに、被害者の方々が一刻も早い復旧・復興の道を歩まれますよう祈念いたします。

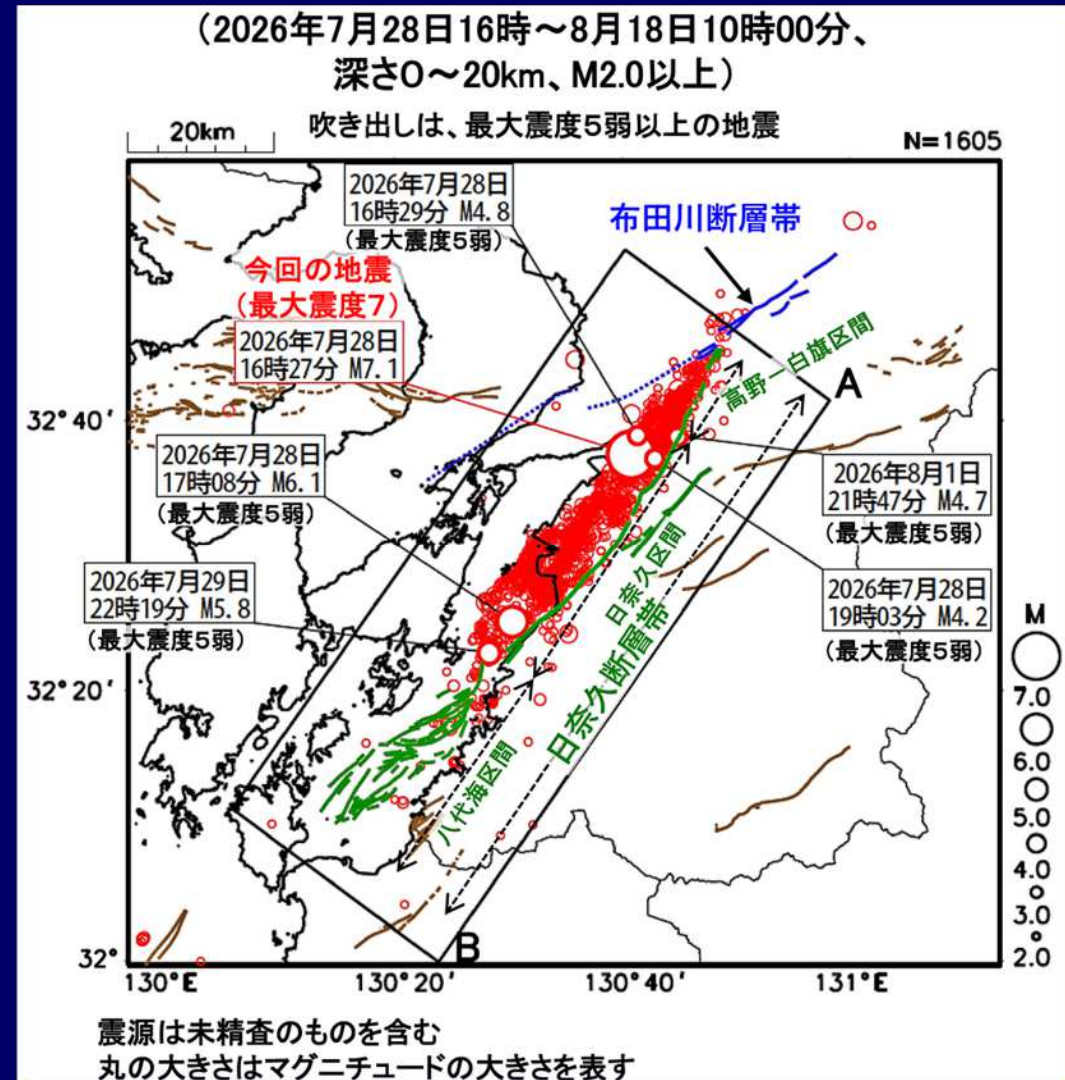
地震・地震動

地震の諸元と特徴

- 発生時刻：2026年7月28日16時27分
- 地震のマグニチュード： 7.1（暫定値）
- 場所及び深さ：熊本県熊本地方(北緯32度37.5分、東経130度40.7分)、
深さ16km（暫定値）
- 発震機構：北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層で、地殻内で発生した地震
- 最大震度：震度7 熊本県宇城市、氷川町
- 特徴：今回の地震では日奈久断層帯が活動して起こっている。この近傍では、2016年にM7.3の平成28年(2016年) 熊本地震が発生し、その2日前に起こったM6.5の地震と合わせて2回の震度7に見舞われている。なお2016年の地震は主に布田川断層帯の活動による。

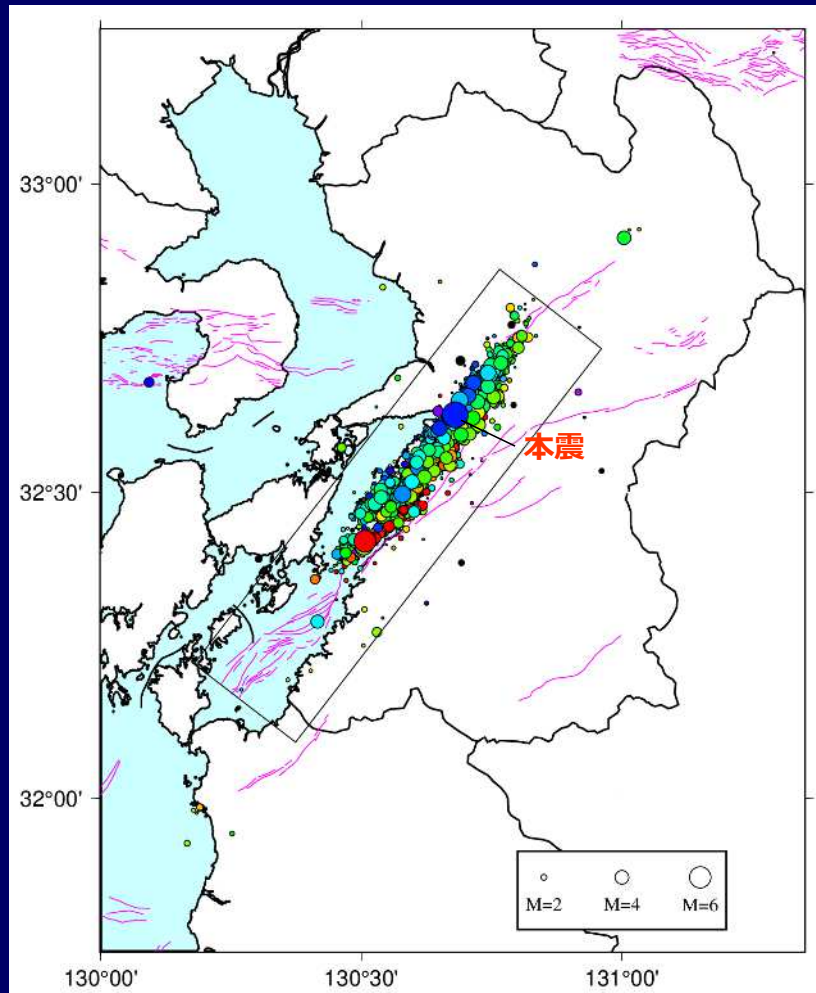
地震の震央分布

- 今回の地震は、日奈久断層帯のうち、主として中央部の日奈久区間で発生しており、北東部の高野―白旗区間と南西部の八代海区間でも若干発生している。
- 2016年熊本地震では、北部の布田川断層帯が主として活動したが、日奈久断層帯の高野―白旗区間でも余震活動が起こっている。

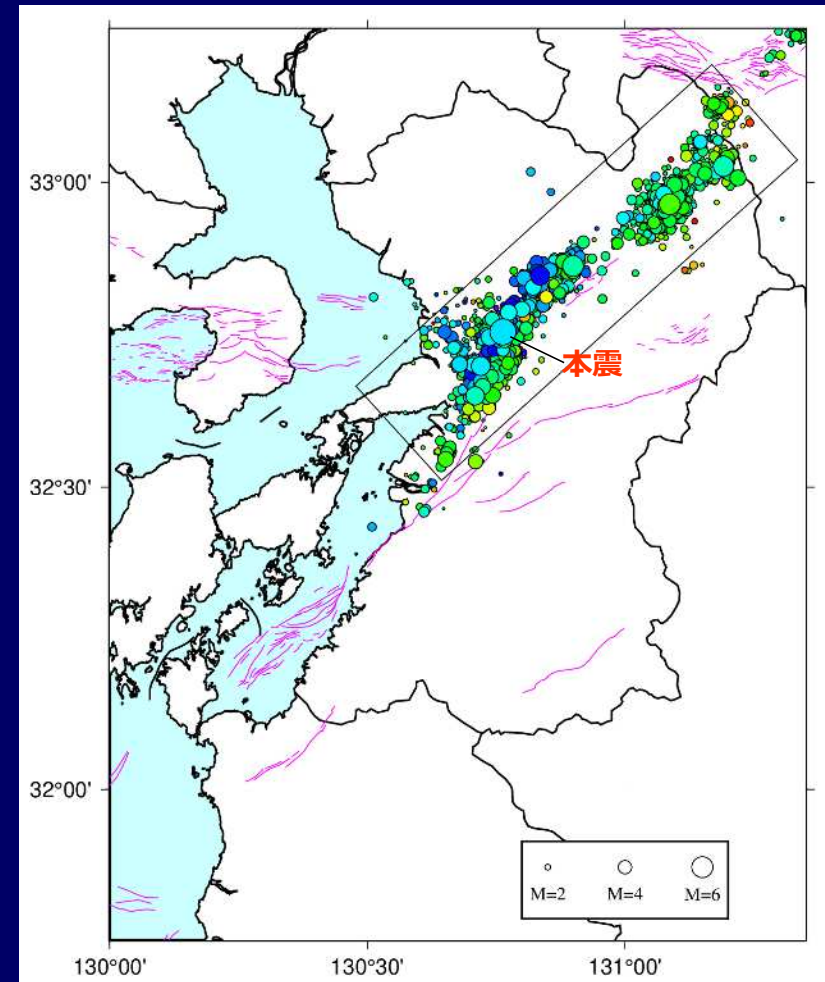


2016年熊本地震との震央分布の比較

令和8年(2026年)熊本地震

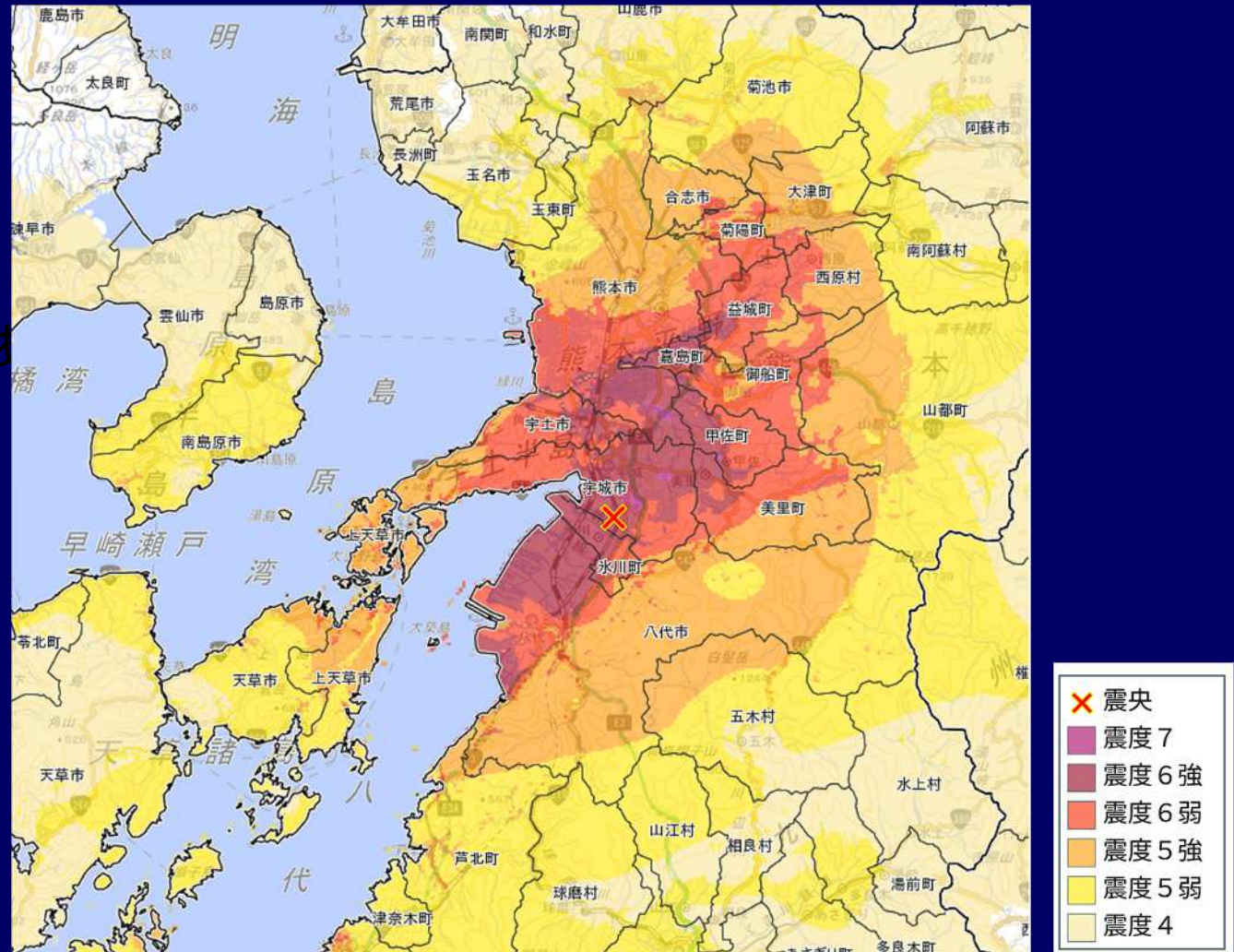


平成28年(2016年)熊本地震



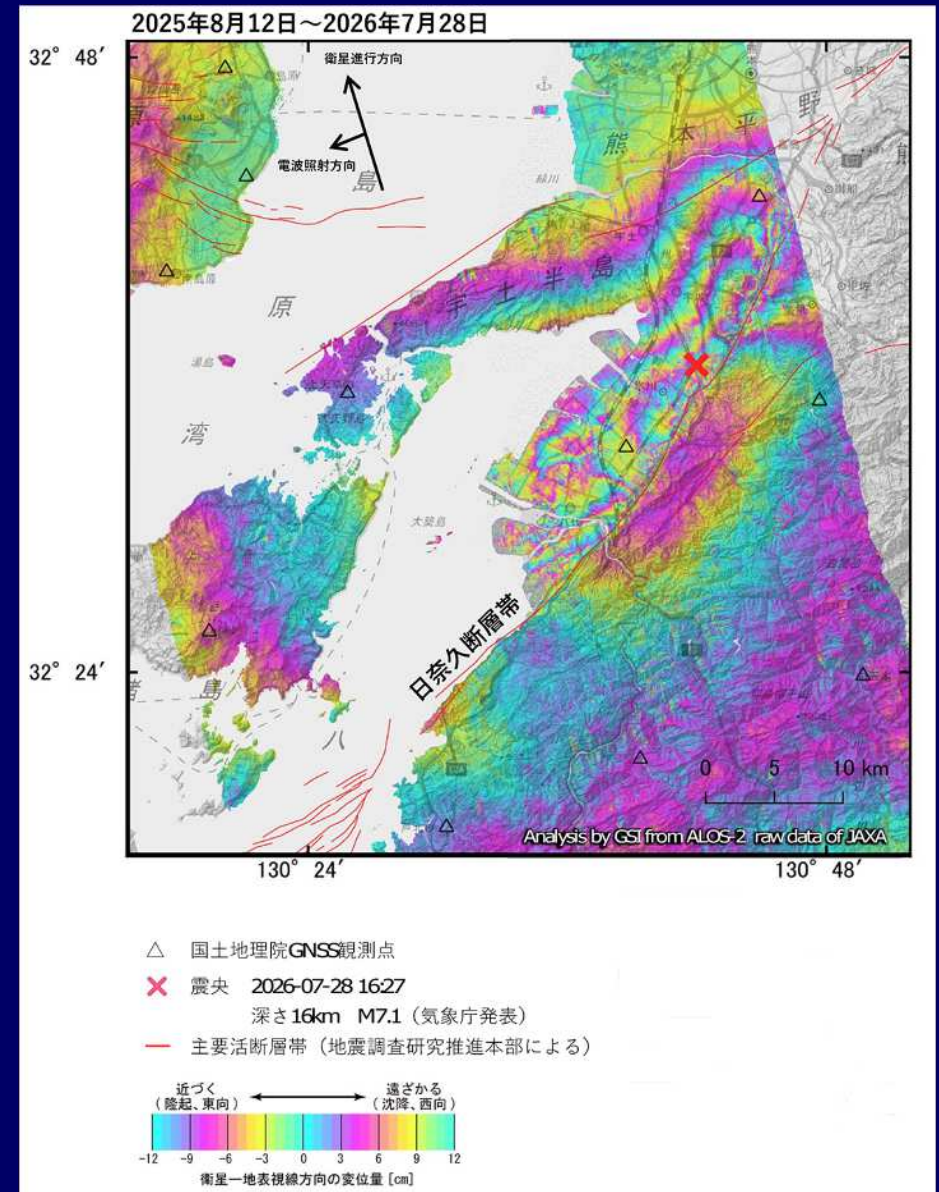
本震の震度分布

- 震度7の分布域は、熊本市南部の城南町、宇城市豊野町、宇城市小川町、甲佐町横田、氷川町の一部等に及んでいる。
- 熊本市南部、宇土市、宇城市、甲佐町、氷川町、八代市などの海側の地域は震度6強となっているが、氷川町から八代市の日奈久断層の東側の地域では震度5強から震度6弱と海側に比べて震度がやや小さくなっている。



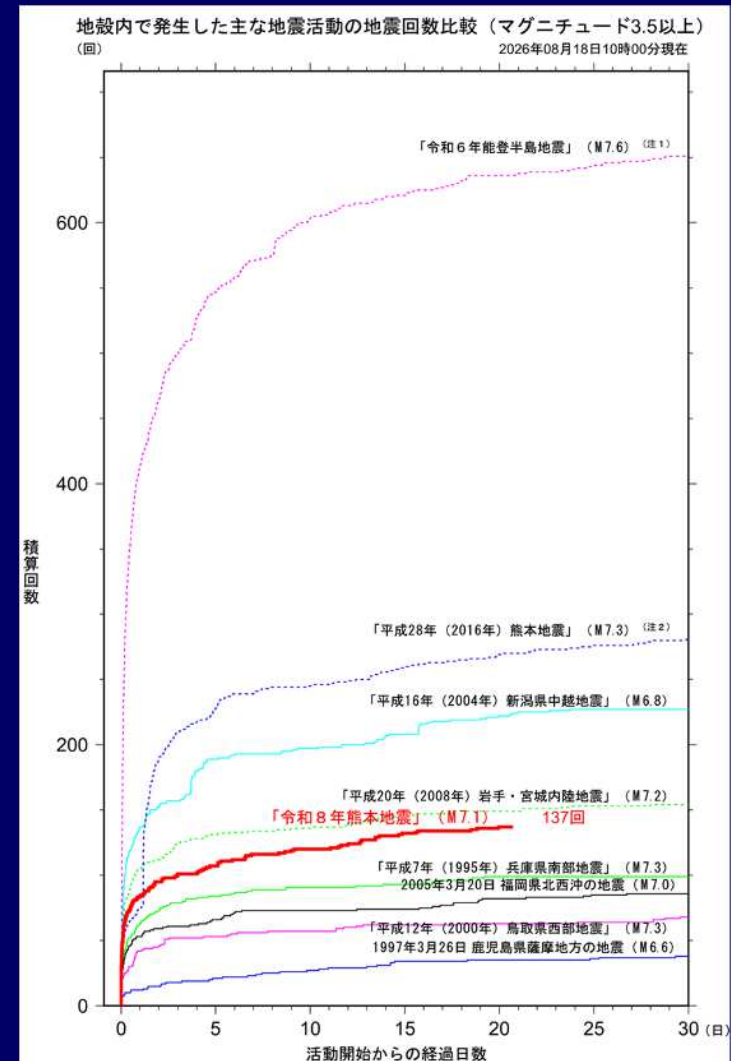
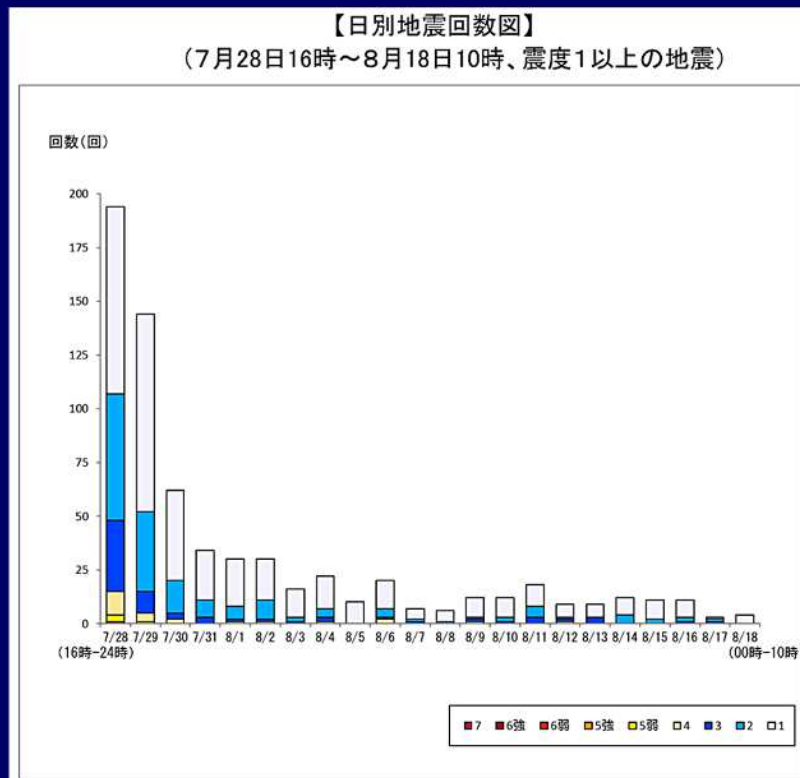
地震による地殻変動

- 「だいち2号」観測データのSAR干渉解析による地殻変動では、日奈久断層帯の北西部では最大約50cm、南東部では最大約10cmの東向きの変動または隆起が見らる。
- GNSS(全球測位衛星システム)によると、八代市千丁観測点では北東方向に86.6cmの水平変位、31.7cmの沈下が観測されている。



余震発生回数の変化

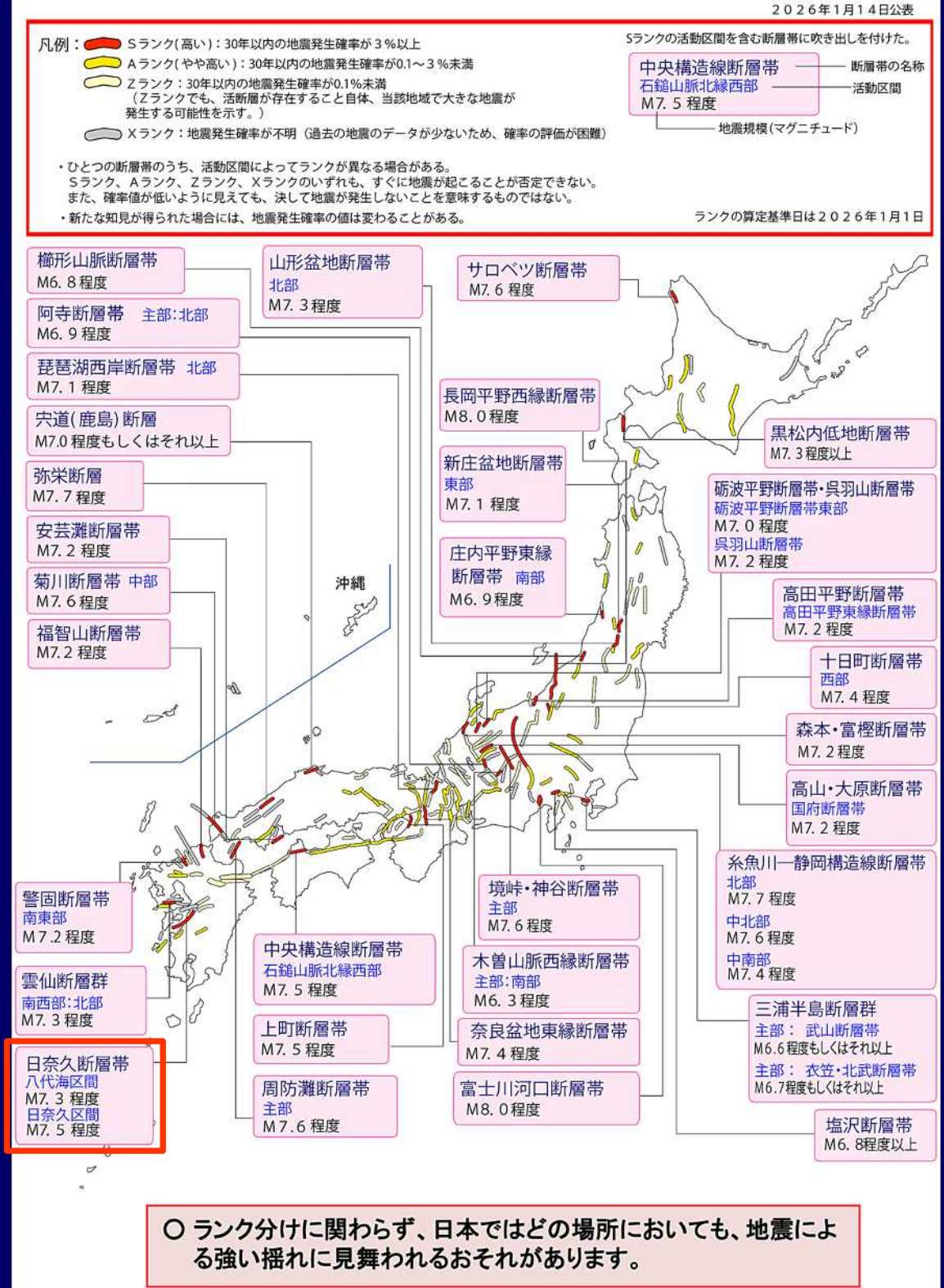
- 余震の最大震度は5弱であり、地震活動は順調に衰微している（8月10日現在）。
- 余震の発生回数は、既往の主要被害地震の中では「兵庫県南部地震」（1995年、M7.3）よりやや多く、「岩手・宮城内陸地震」（2008年、M7.2）よりやや少ない程度である。



日奈久断層帯の 将来の活動評価

- 我が国の主要活断層の評価結果によれば、日奈久断層帯の将来の活動度はSランク（30年以内の発生確率が3%以上）とされており、発生確率が高い断層帯と評価されていた*。
- 今回の地震では、日奈久断層帯のうち、日奈久区間の南西部は活動しておらず、まったく活動しなかった八代海区間と合わせて、将来、地震が発生する可能性がある。

*地震調査研究推進本部：主要活断層の評価結果（2026.1.14公表）より抜粋



○ ランク分けに関わらず、日本ではどの場所においても、地震による強い揺れに見舞われるおそれがあります。

熊本県とその周辺の地震活動

陸域の浅い地震は主に別府－島原地溝帯とその周辺（布田川・日奈久断層帯に沿う地域）で発生しており、阿蘇山周辺と熊本市周辺に多い。

熊本県に被害を及ぼした主な地震

西暦(和暦)	地域(名称)	M	県内の主な被害(カッコは全国での被害)
1619. 5. 1 (元和5)	肥後・八代	6.0	妻島城はじめ公私の家屋が破壊した。
1625. 7. 21 (寛永2)	熊本	5.0～6.0	熊本城の火薬庫爆発。天守付近の石壁、城中の石垣に被害。死者約50人。
1707.10.28 (宝永4)	〈宝永地震〉	8.6	(死者20,000人、家屋全壊60,000棟、同流失20,000棟。)
1723.12.19 (享保8)	肥後・豊後・筑後	6.5	肥後で死者2人、負傷者25人、家屋倒壊980棟。
1769. 8. 29 (明和6)	日向・豊後・肥後	7.3/4	延岡城・大分城で被害大。熊本領内でも、死者1人、家屋倒壊115棟。
1854.12.24 (安政1)	〈安政南海地震〉	8.4	安政東海地震、伊予西部の地震被害と重なり区別が難しい。死者6人、家屋全壊907棟。
1889. 7. 28 (明治22)	熊本	6.3	熊本市付近で被害大。死者20人、負傷者54人、住家全壊239棟。
1941.11.19 (昭和16)	日向灘	7.2	死者2人、負傷者7人、住家・非住家全壊19棟。
1946.12.21 (昭和21)	〈南海地震〉	8.0	死者2人、負傷者1人、住家全壊6棟。
1975. 1. 23 (昭和50)	阿蘇山北縁	6.1	一の宮町三野地区に被害集中。負傷者10人、住家全壊16棟。

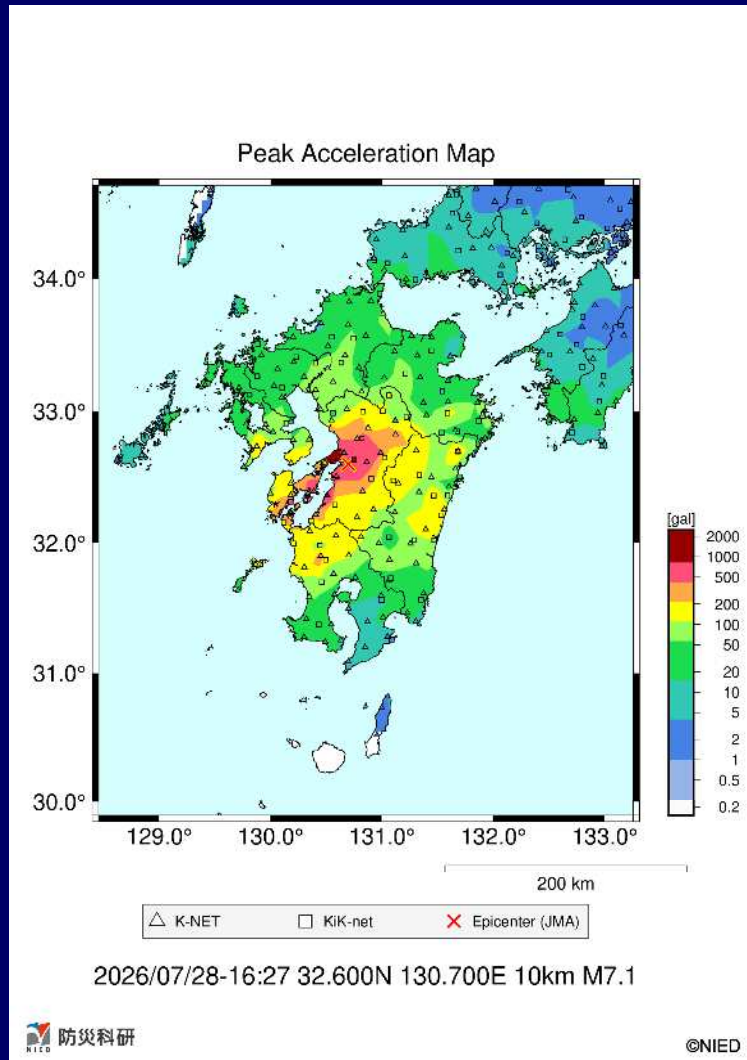
2016.4.16 熊本・阿蘇 (2016年熊本地震) 7.3 益城町・南阿蘇村を中心に死者120人、負傷者2337人

熊本県周辺の主な被害地震 (～1997)

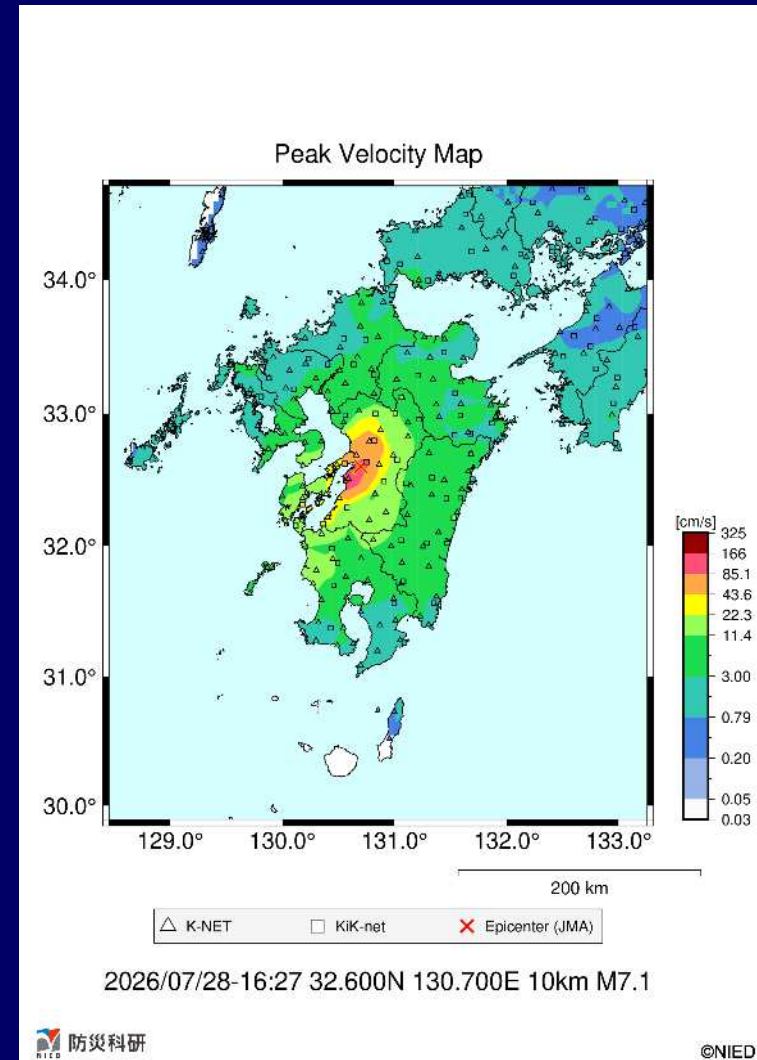
地震調査研究本部地震調査委員会編：日本の地震活動－被害地震から見た地域別の特長－<第2版>

九州地方の最大加速度・速度分布

● 最大加速度



● 最大速度



最大地震動

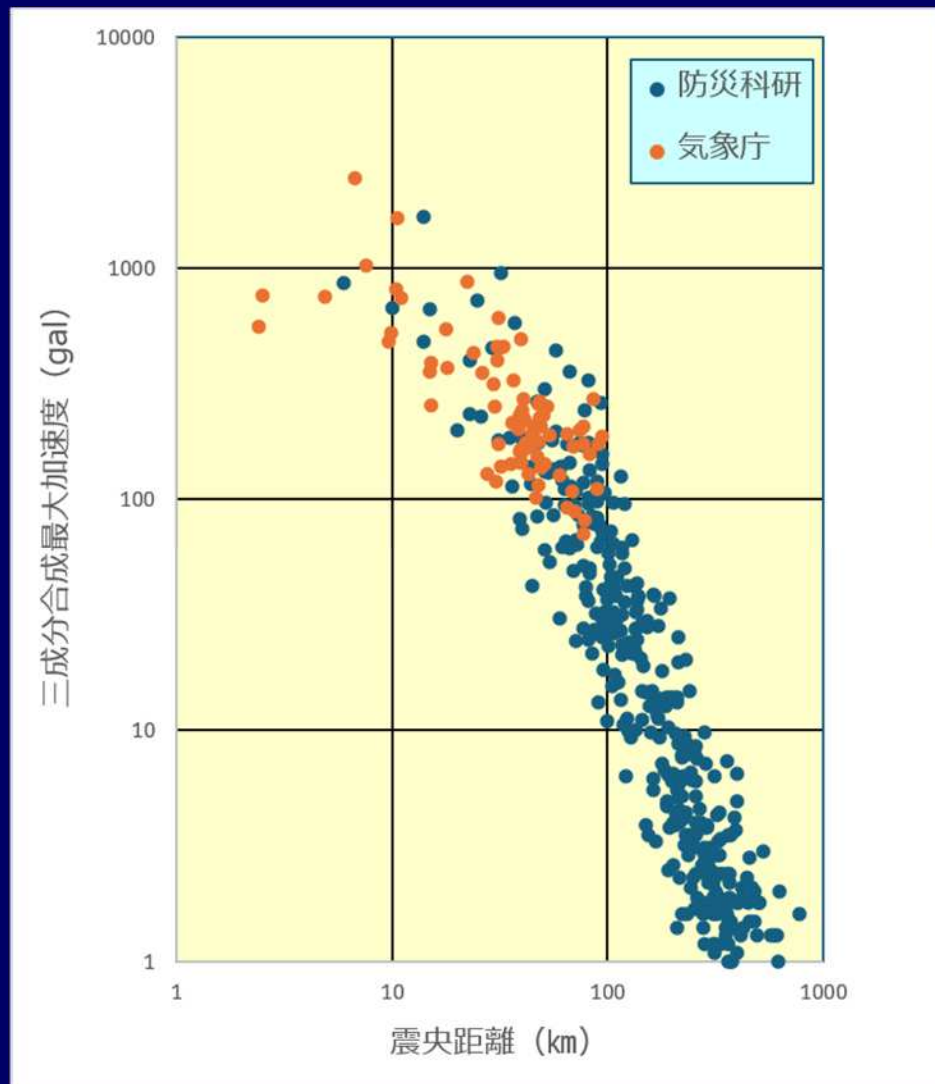
- 震度 7 および 6 強の12地点および震度 6 弱ではあるが加速度あるいは速度が大きい 2 地点の加速度、速度最大値は下表のとおりです。
- 三成分合成波形で見ると、最大加速度ならびに最大速度は、いずれも宇城市豊野町で観測されている**2,438gal**、**221.8cm/s**である。

データ収集機関	観測地点	震央距離 (km)	震度	計測震度	最大加速度 (gal)				最大速度 (kine)			
					三成分合成	N-S	E-W	U-D	三成分合成	N-S	E-W	U-D
防災科研	KiK-net豊野	6	6 強	6.3	864	607	723	841	95.4	70.7	69.9	41.9
	KiK-net三角	14	6 弱	5.8	1667	1376	827	635	51.4	49.7	30.0	23.0
	K-NET宇土	10	6 強	6.0	669	499	651	329	70.2	67.3	68.4	17.8
	K-NET八代	14	6 弱	5.7	483	310	350	302	134.6	94.8	95.7	26.3
	KiK-net益城	25	6 強	6.1	725	449	692	259	81.5	50.1	76.2	15.8
気象庁	宇城市豊野町	7	7	6.6	2438	2413	1054	912	221.8	221.4	91.8	42.5
	氷川町島地	5	7	6.5	748	567	696	366	158.7	126.1	134.4	40.4
	八代市千丁町	11	6 強	6.4	746	743	329	389	156.8	137.8	100.0	27.7
	八代市千鏡町	8	6 強	6.2	1029	934	501	604	126.6	97.6	112.7	21.0
	益城町宮園	23	6 強	6.1	871	416	838	260	90.6	40.5	90.1	13.3
	熊本美里町馬場	10	6 強	6.4	813	573	783	454	112.7	59.5	110.6	23.1
	宇城市松橋町	2	6 強	6.1	560	363	513	441	88.8	70.9	69.4	12.6
	宇城市不知火町	3	6 強	6.2	761	663	585	437	85.0	84.7	46.0	13.0
	熊本南区城南町	11	6 強	6.4	1651	638	965	1340	106.3	72.5	102.7	30.3

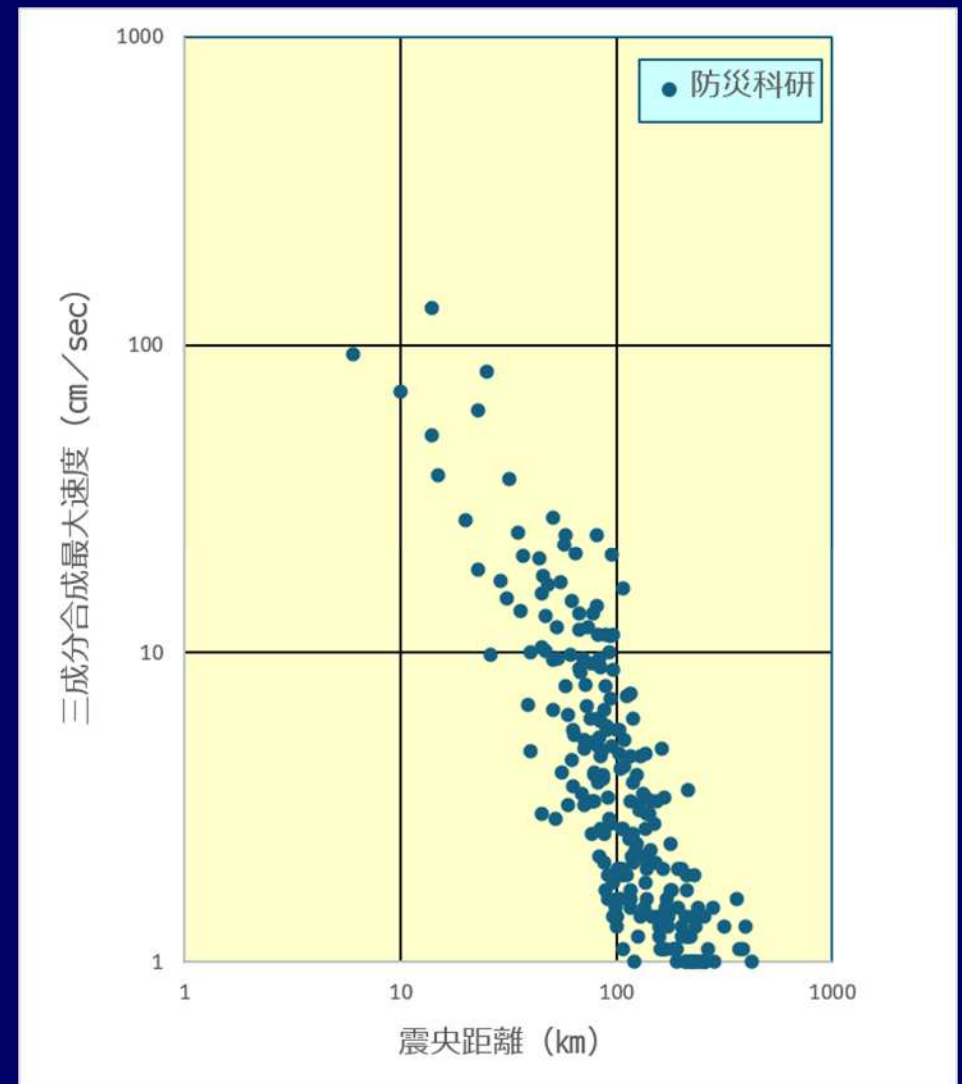
加速度値は気象庁・防災科研データによる。速度値は加速度波形を積分して算定

最大加速度・速度の距離減衰

● 三成分合成最大加速度



● 三成分合成最大速度



※気象庁データは震度5弱以上のみ

上図は気象庁並びに防災科学技術研究所のデータを使用して作成

地震動の影響（最大加速度と最大速度の関係）

- 図-1には令和8年熊本地震と過去の被害地震の三成分合成波形の最大加速度と最大速度の関係図を示す。
- 図中にはこれまでの経験から構造物に大きな被害が発生すると考えられている最大加速度が800gal以上かつ最大速度が100cm/s以上の領域（破線）を示す。
- 今回の地震では、この領域に含まれる地点は4地点であるが、他に3地点も境界領域にあり、大きな被害の発生と調和的である。

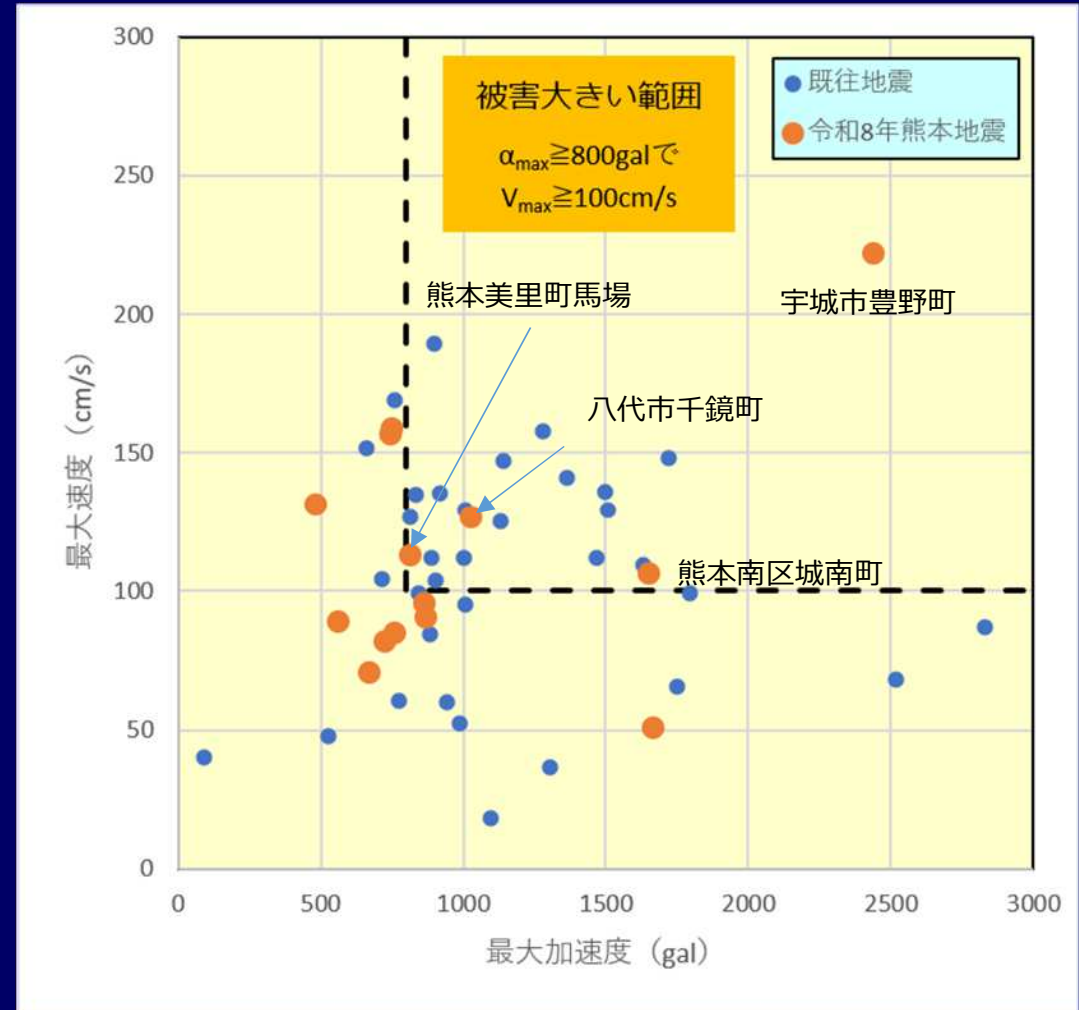
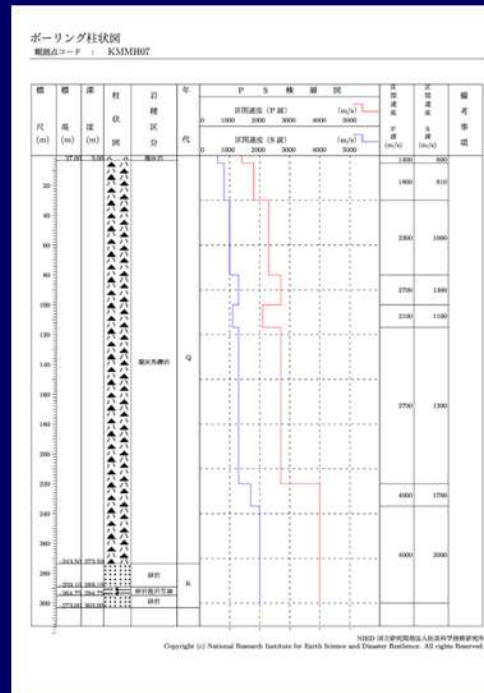


図-1 最大加速度と最大速度の関係

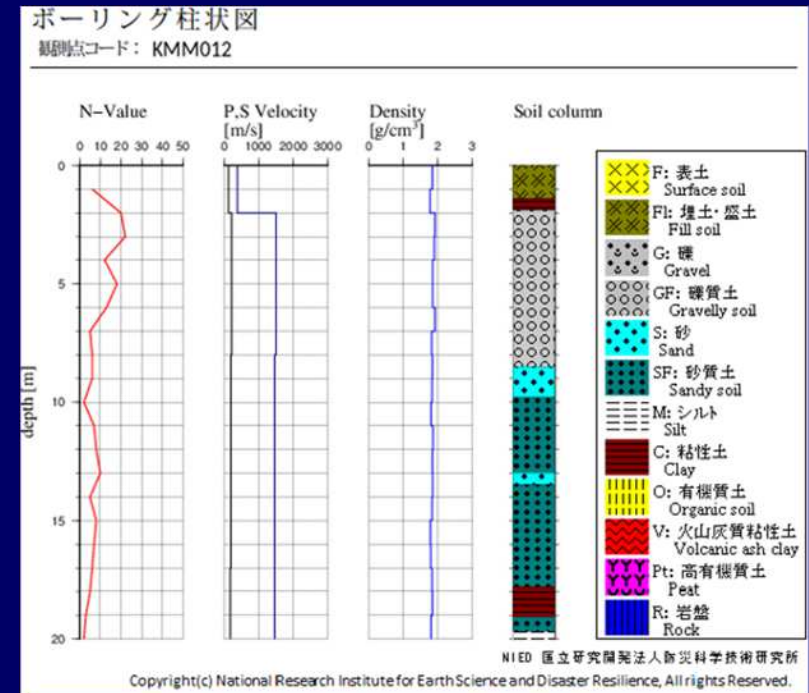
周波数特性 (1)

- 地震動の建物への影響は、周期 1 秒程度の地震動成分がどの程度大きいかで推測できる。そのためには速度応答スペクトルで評価してみた。
- 次ページには4地点の疑似速度応答スペクトルを示している。①は最大加速度・速度ともに最大であった宇城市豊野地点の周波数特性で、N-S成分が1秒付近で大きなピークを示している。②は岩盤上の三角地点であり、ピーク周期は0.3秒前後と短い。この地点は最大加速度は大きい、短周期であるため建物への影響は小さいと考えられる。

- ③は軟弱地盤の八代地点で、地盤の影響でピーク周期が3秒程度と長くなっている。④の八代市鏡町地点も干拓地の軟弱地盤上にあるため、ピーク周期が1～2秒にあり、建物への影響が大きいと考えられる。



KiK-net三角の土質柱状図

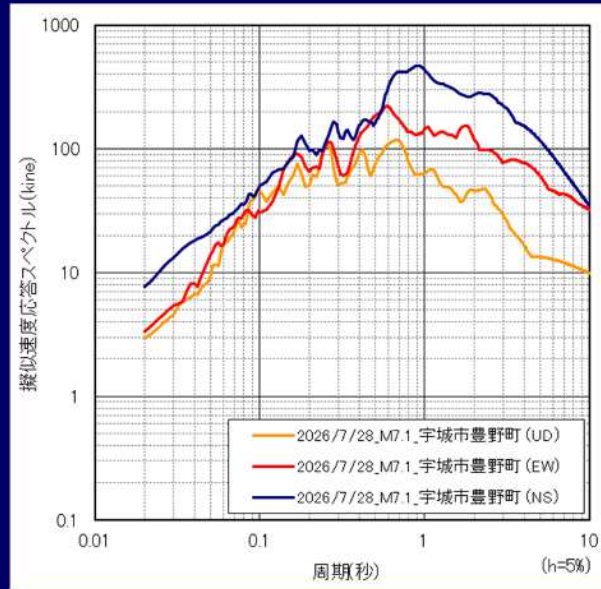


K-NET八代の土質柱状図

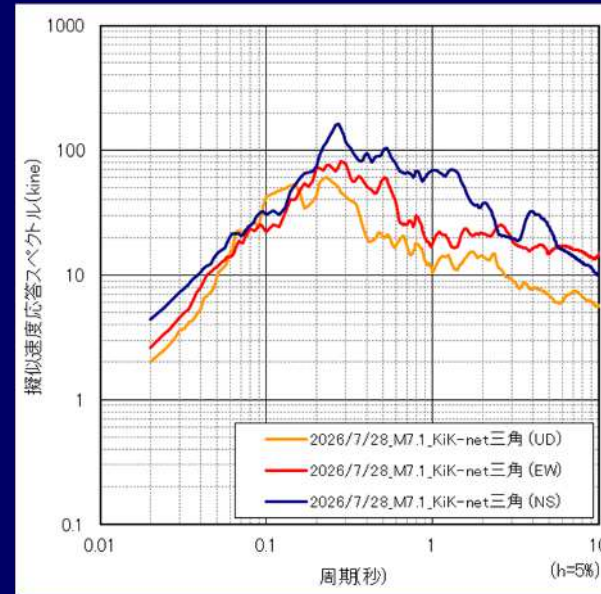
周波数特性 (2)

疑似速度応答スペクトル

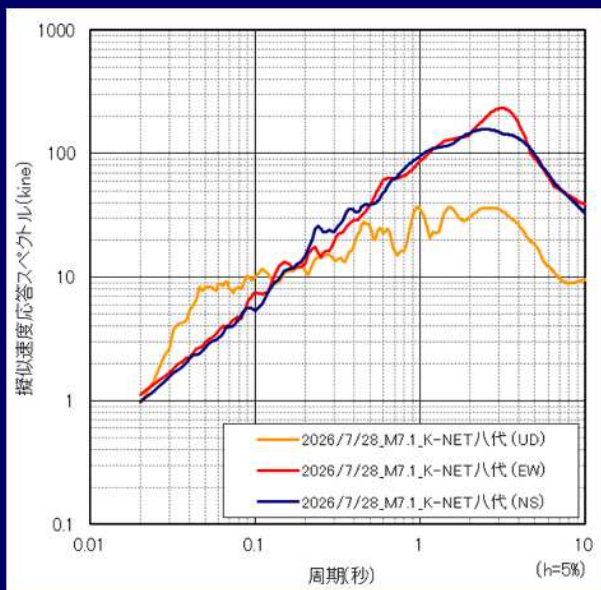
① 宇城市豊野町



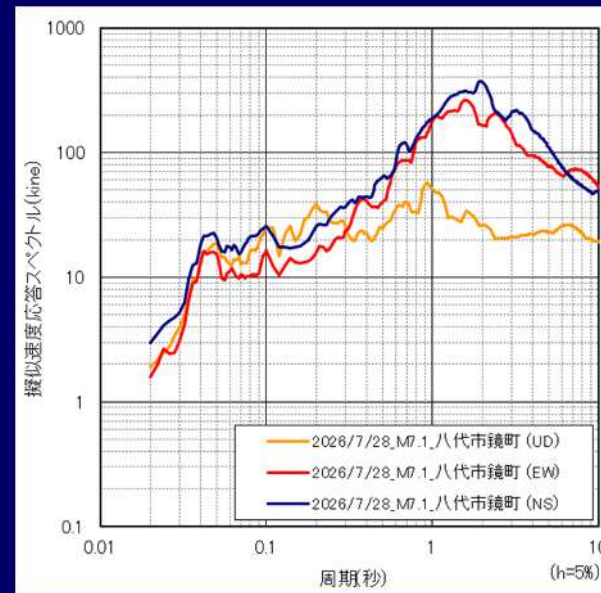
② KiK-net三角



③ KiK-net八代



④ 八代市鏡町



地形・地質

八代平野の地形

- 今回の地震で被害が大きかった宇城市・氷川町・八代市は、図-1に示すよう八代平野と呼ばれる低地に位置している。八代平野は、海岸の長さが約23km、面積が南北約22km、東西約8km、面積230km²の海岸平野である。
- 八代平野は、西は八代海（不知火海）、東は九州山地に挟まれている。九州山地との境界には日奈久断層帯が走っており、断層崖となっている。
- 日奈久断層は、北は布田川断層にまで達しており、南は肥後二見から芦北町田浦を経て、八代海に没している。
- 八代平野の地形は、球磨川や氷川などによる標高10m以下の低平な三角州と17世紀以降の干拓地からなる（図-1参照）。
- 八代平野の北部には九州中央山地を源とする一級河川の球磨川が河口部で厚い土砂を堆積して三角州を形成し、平野中央部には氷川、砂川、大鞘川などの中小河川が八代海に注いでいる。
- 江戸時代以降、干拓が行われて平地が広げられ、現在の八代平野となっている。干拓地は平野全体の2／3を占める。

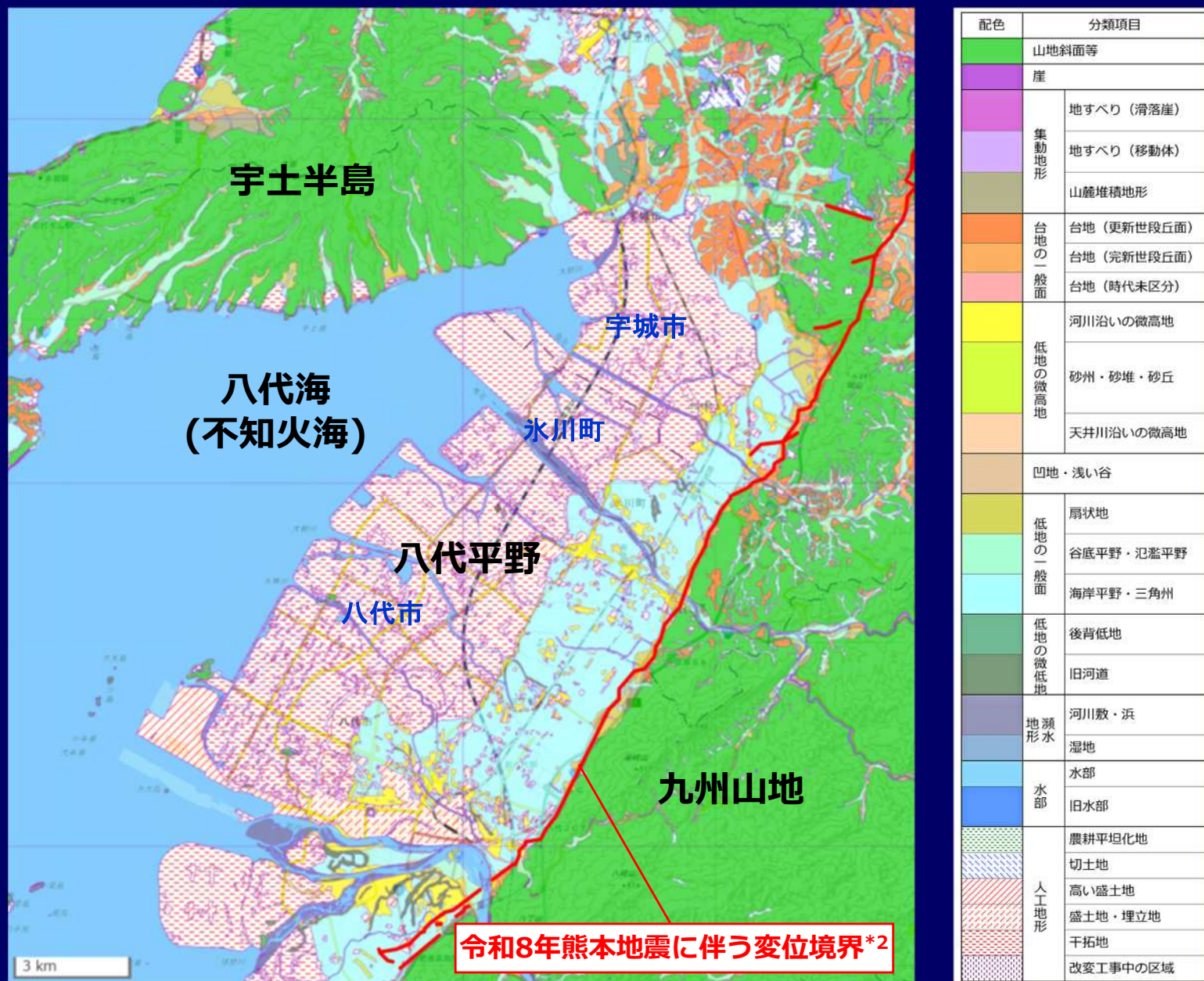


図-1 主要な被災地域の土地条件図*1

*1 国土地理院：土地条件図より抜粋・加筆

*2 国土地理院：「だいち2号」及び「だいち4号」の衛星画像解析による令和8年熊本地震に伴う変位境界（速報）」による

八代平野の地質

- 当該地域はGL-400～500mに基盤岩類があり、その上に更新世～完新世の砂礫、粘土、火山噴出物などが厚く堆積していることが知られている（表-1参照）。
- 沖積平野は球磨川などの河川から供給されたシルトや砂などからなる不知火粘土層（有明粘土層に相当）で構成される。
- 表-1に示す八代平野の地質層序表では、完新世の堆積土は、下部にきわめて軟弱なシルトから粘土からなる最大30m程度の厚さの有明粘土相当層が堆積し、上部には干拓土を含む表層土（土砂）が存在する。

表-1 八代平野の地質層序表*

地質時代		地 層 名	層 相
第 四 紀	完 新 世	表層土（干拓土含む）	還元色土砂（酸化色土砂）
		有明粘土層相当層 ＜K-Ah テフラ＞	極めて軟弱なシルト～粘土からなり、腐植物片や貝殻片を含む。礫質層を挟む。暗灰色や暗青色などの還元色。
	更 新 世	島原海湾層相当層 ＜AT テフラ＞	高有機質の粘土層やピート層を有し、砂質層、礫質層を挟む。AT を挟在する。
		段丘砂礫層	直径 5～15cm の円～垂円礫の礫層。色調は概して酸化色。
		阿蘇 -4 火砕流堆積物	灰白～黄褐色で軽石を含む特徴あり。軽石交じり凝灰質砂
		阿蘇 -4/-3 間堆積物	シルト～粘土からなり、腐植物片、貝殻片を含む。礫質層挟む。
		阿蘇 -3 火砕流堆積物	暗灰色スコリアを含む 軽石交じり凝灰質砂
		阿蘇 -3 火砕流堆積物以前の堆積物	シルト～粘土からなり、砂礫層を挟む。有機物や貝殻片の混入。
中生代 ～ 古生代		基盤岩類	変成岩類、花崗岩、石灰岩など

被害の概要

被害の概要 <人的被害・住家被害>

- 地震による人的被害は、死者39人、負傷者359人であり、ほとんど熊本県内で発生している（8月17日現在）。
- 住家被害もほとんど熊本県内であり、1万5千棟弱の建物が被害を受けている。

表-1 地震による人的被害・住家被害集計一覧表

都道府県	人的被害						住家被害			
	死者	行方不明	負傷者		小計	合計	全壊	半壊	一部破損	合計
			重傷	軽傷等						
	人	人	人	人	人	人	棟	棟	棟	棟
福岡県			1	1	2	2			8	8
熊本県	39		26	329	355	394	1,449	1,340	11,587	14,376
大分県				1	1	1				0
鹿児島県				1	1	1				0
合計	39	0	27	332	359	398	1,449	1,340	11,595	14,384

市町村別の人的被害

- 全体の死者39人のうち八代市が20人と約半数を占めている。このうち9人は日本製紙(株)八代工場の煙突倒壊による犠牲者である。
- 嘉島町の死者7人はイオンモール熊本のガス爆発による死者である。

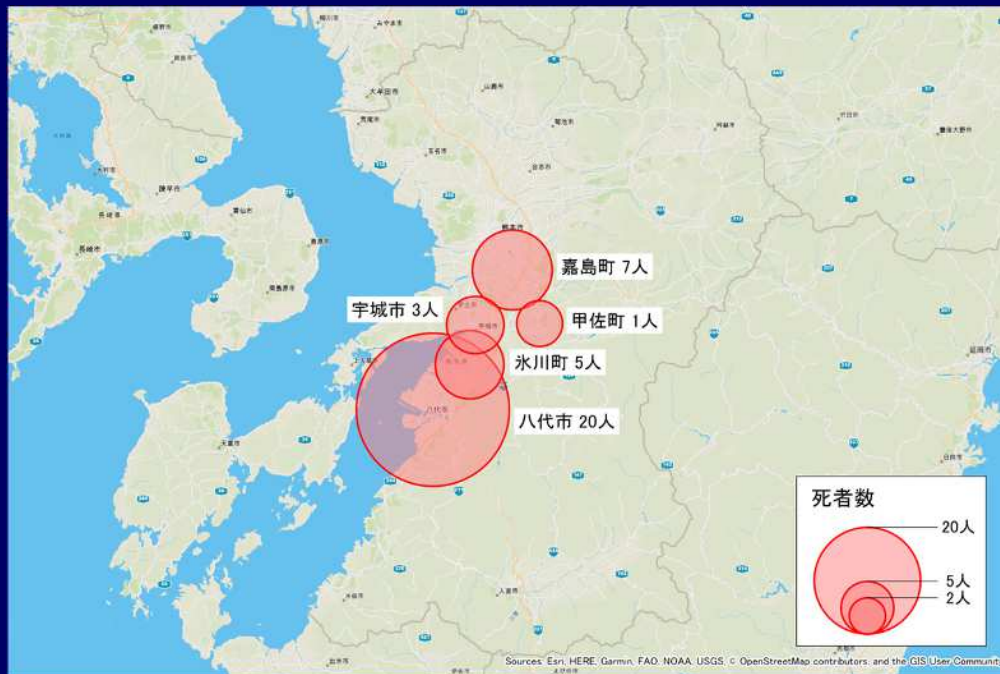


図-1 死者の市町村別分布（8月19日現在）

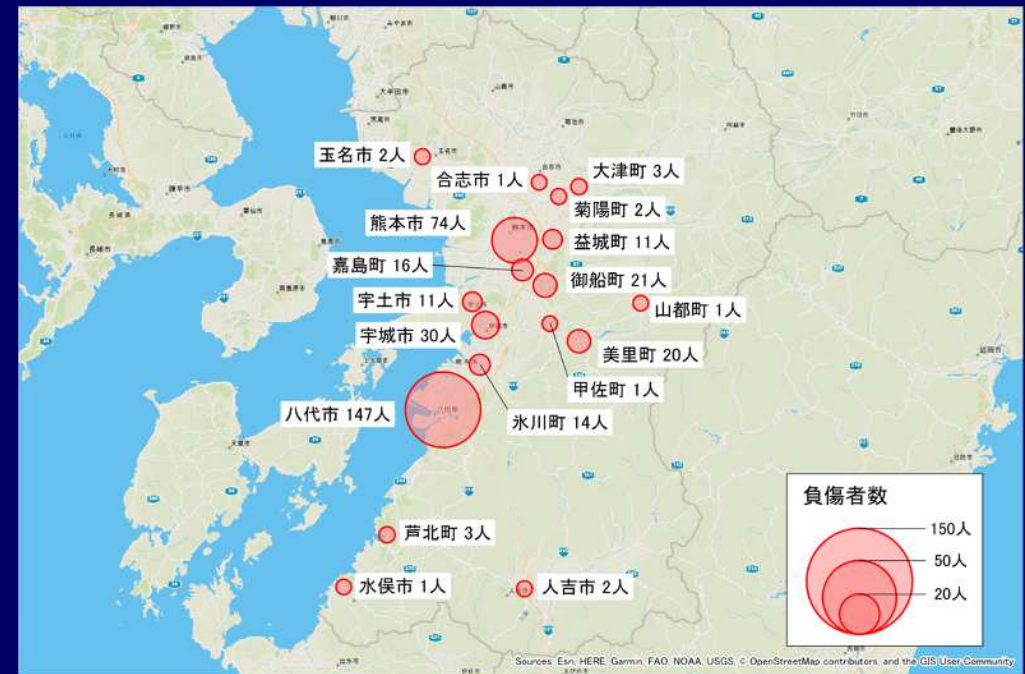


図-2 負傷者の市町村別分布（8月19日現在）

市町村別の住家被害

- 住家被害数は熊本市が11,140棟と最も多いが、一人当たりの被害率は1.5%程度である。
- 宇土市と宇城市の住家被害数はそれぞれ5,841棟と4,600棟でそれほど大きく変わらないが、一人当たりの被害率16.2%程度と8.2%程度で2倍程度の違いがある。
- 氷川町の住家被害数は1,964棟であるが、一人当たりの被害率は17.7%程度で最も高い。

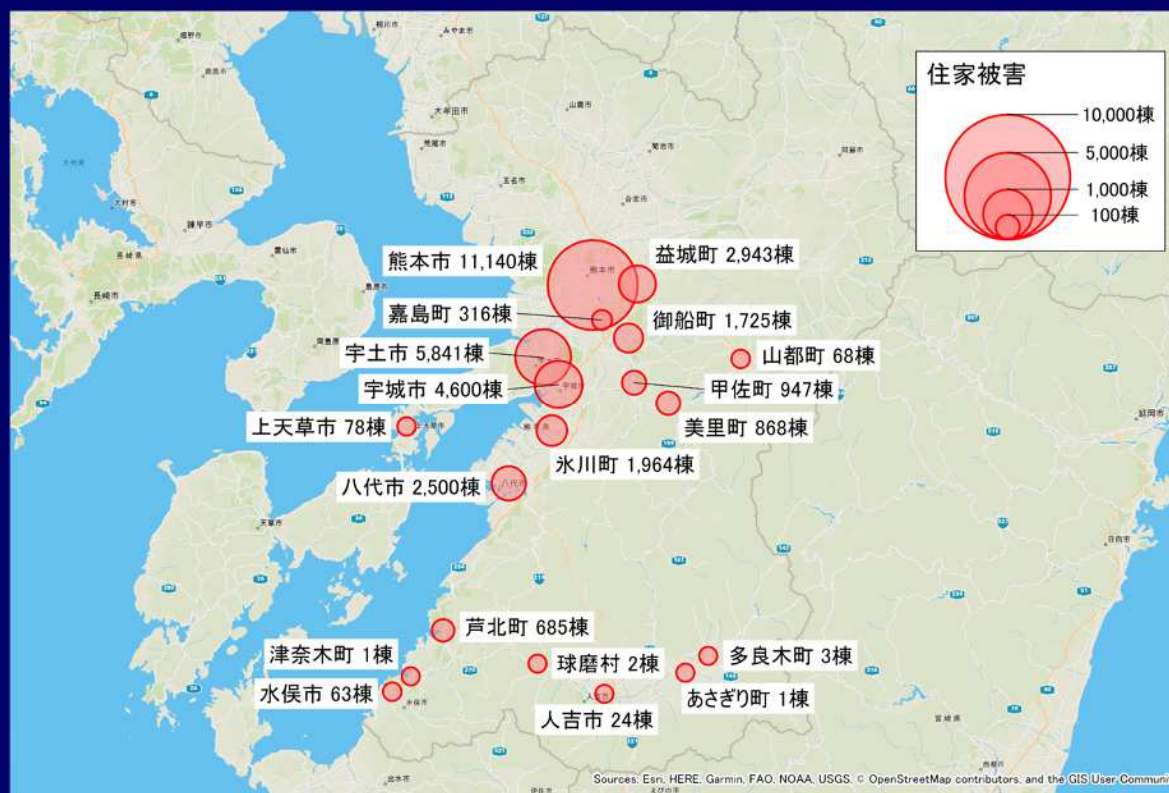


図-3 住家被害の市町村別分布 (8月19日現在)

被害調査

- 地震の被害調査は発災翌日から開始され、弊社九州支社による精力的な現地調査により、発災直後の貴重な写真が得られた。
- 本社では営業本部地震防災室を中心として地震被害に関する各種情報収集に努め、現地調査の必要性の有無について検討を進めるとともに、現地調査スタッフの選定を進めた。
- 判明した被害規模の大きさから、本社においても現地調査を行い、その情報を広く伝達することが社会的にも重要と考え、調査の実施が決定された。
- 本社調査チームの構成は次のとおりであり、調査日程は8月5日～7日の3日間とした。

現地調査 米岡 威（リーダー）

小徳 基

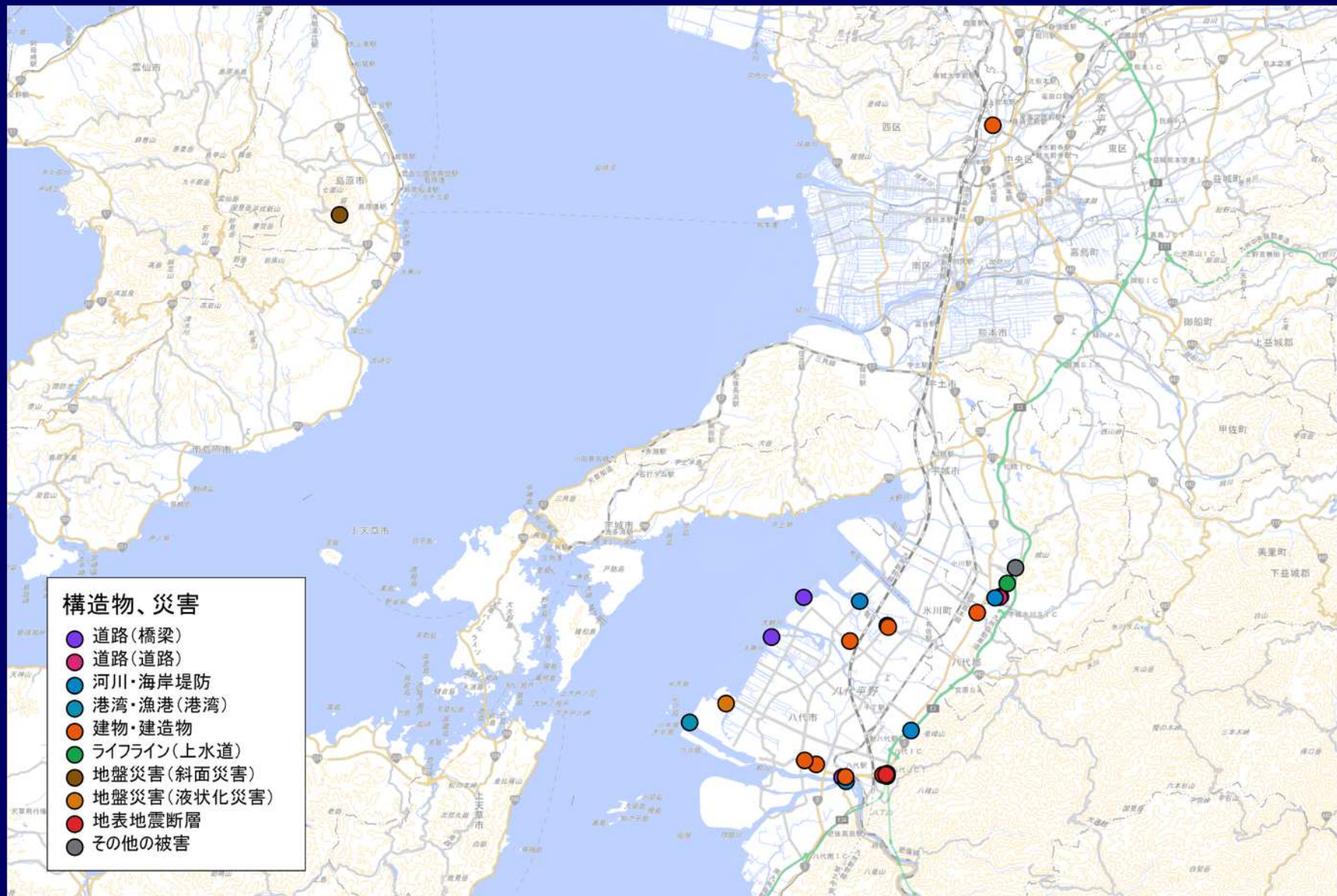
和田 昌大

平塚 智幸

支援スタッフ 森本 巖

佐藤 由子

調査地点



橋梁 南九州自動車道 妙見第一橋

①



②



④



上り線の桁ずれ及び段差
(NEXCO西日本発表資料より引用)

③



- E3A南九州自動車道の八代インター南の妙見第一橋において、下り線で橋梁部桁ずれ（写真①、②）、上り線で橋梁部桁ずれと路面の段差（約1.5m）が生じた（写真③、④*）。

* 西日本高速道路（株）：令和8年熊本地震によるE3九州自動車道 川田橋ほか2橋の損傷について（令和8年7月31日8時10分）
令和8年熊本地震による通行止め・災害状況等について(第4報)（令和8年7月29日11時00分）

橋梁 九州自動車道 片野川橋

①



②



③



- 片野川橋は南九州自動車道の妙見第一橋とほぼ同じ位置にある九州自動車道の橋梁である。
- 橋梁部の桁ずれ、路面の段差（約0.5m）、開き（約0.5m）が生じた（写真①*、写真②）。
- 橋梁を横断する開水路も被害を受けているところから、地震断層の影響によると考えられる（写真③）。

橋梁 九州自動車道 川田橋

①



②



③



- 川田橋は九州自動車道の宇城氷川SIC～八代IC間にある橋梁で、橋梁部ジョイントの損傷、桁ずれ、路面の段差（約1m）、開き（約0.5m）が生じた（写真①*、写真②）。
- 橋梁脇の道路には路面に地割れが生じていた（写真③）。

橋梁 国道219号 新萩原橋

①



②



③



- 国道219号の新萩原橋は、八代市を流れる一級河川球磨川に架かる全長653.6m、幅員11mの橋梁であり、1974年に竣工した。
- 地震で、橋台と橋桁の間に段差が確認され、通行止めとなった（写真①、②、③）。
- 橋脚基部の損傷*

* 国土交通省：令和8年熊本地震による八代市付近の被災状況（8月20日6時00分時点）

橋梁 横江大橋 (1)

横江大橋の被害位置



国土地理院ウェブサイトによる

② P3橋脚／(H26熊本地震時撮影)



① P2橋脚／傾斜・沈下(今回R8熊本地震)



- 横江大橋は橋長200m、幅員8m単純合成桁2連＋単純トラス桁2連の橋梁で1979年に竣工している。
- 今回の地震では南西側のトラス桁と単純桁接合部の橋脚（P2）が沈下・傾斜した（写真①）、通行不能となった。
- 2016年熊本地震でも別な（P3）橋脚が2～3m沈下*し、通行不能となった（写真②）。

橋梁 横江大橋 (2)

③



④



⑤



- 橋脚の沈下に伴って、単純合成橋側の橋桁が沈下し路面に数cmの段差が生じた（写真③、④）。
- 2016年の熊本地震で被災したP3橋脚は、大口径杭による門型ラーメン形式(図-1)の基礎で復旧されたため、今回の地震では被害は見られないようである（写真⑤）。

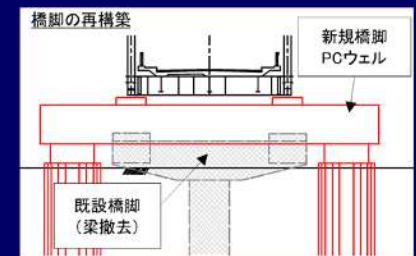


図-1 H26年熊本地震のP3橋脚の復旧模式図*

橋梁 刈萱橋 (1)

①



②



- 刈萱橋は宇城市と氷川町の境界を流れる砂川に架かる2径間の橋梁で、左岸側で橋桁が約70cm開口し（写真①、②）、右岸側では橋台裏がやや沈下していた（写真③）。

③



ように見える（写真④）。 支承が破壊して橋桁が直接橋脚上に載っているようにも見える。

- 橋の周辺は道路や護岸に変状が多数見られた（写真⑤、⑥、⑦）。

橋梁 苅萱橋 (2)

④



⑤



⑥



⑦



道路 段差・亀裂・陥没 国道184号 宇城市小川町寺町

①



- 延福寺から北東へ伸びる県道184号の約100m間は日奈久断層上に位置し(図-1)、亀裂(約0.2m)や段差(約0.3m)が発生した(写真①)。また歩道部との境界に亀裂や崩壊が生じた(写真②)。

②



図-1 活断層図(都市圏活断層図)*

* 国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）活断層図（都市圏活断層図）より抜粋・加筆

道路ほか 延福寺周辺 宇城市小川町小川

①



②



図-1 活断層図(都市圏活断層図)*

- 延福寺周辺は日奈久断層帯上に位置しており(図-1)、断層変位に伴い、地盤変状や構造物被害が集中した(写真①)。
- 戸建住宅では不等沈下が生じた(写真②)。

* 国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）活断層図（都市圏活断層図）より抜粋・加筆

堤防 鏡川パラペット護岸亀裂

①



②



- 鏡川左岸*パラペット護岸の亀裂
写真手前(上流側)護岸が川側にせり出すように破断（写真①，②）。

* 九州新幹線から約850m上流部

港湾 八代外港 (1)

- 八代外港西端の「-9m岸壁」で岸壁背後地盤の変状（亀裂・段差・陥没：写真①～②、噴砂：写真③）を確認した。

①



「国土地理院：地理院地図（令和8年熊本地震後の正射画像）」より抜粋・加筆



②



③



港湾 八代外港（2）くまモンポート

- くまモンポートのクルーズ船専用岸壁（一部耐震強化岸壁）では、鋼製ジャケット接続部の段差(写真③,④)、岸壁背後の亀裂・段差・噴砂(写真②)が生じた。

① 全景



② 岸壁背後の亀裂・段差・噴砂



③,④ 鋼製ジャケット接続部の段差（砂利で応急復旧済）



堤防 干拓堤防被害 (1) 八代干拓 昭和海岸

- 今回の地震により干拓地の海岸堤防では、堤防の亀裂、沈下等の被害が多数発生した。昭和海岸でも、堤防天端の沈下(写真②)、パラペットの傾き(写真①)、堤防背後地盤の亀裂・陥没等が生じた。堤防周辺では排水機場内で噴砂が確認された(写真④)。

① パラペットの傾動



② 堤防天端の沈下



③ 樋門接続部の亀裂・段差



「国土地理院：地理院地図（令和8年熊本地震後の正射画像）」より抜粋・加筆

④ 排水機場内の噴砂



堤防 干拓堤防被害 (2) 八代干拓 文政海岸

- 八代干拓地の文政海岸では、海岸堤防裏法面のはらみ出し、法尻の沈下・噴砂及び背後地盤の亀裂・段差・陥没・噴砂が複数箇所を確認された。

① 法面はらみだし



② 法面はらみだし・噴砂



③ 法面はらみだし・法尻沈下



「国土地理院：地理院地図（令和8年熊本地震後の正射画像）」より抜粋・加筆

④ 堤防天端の状況



建物・建造物 ビルの座屈 (1) 八代市通町

①



②



国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）

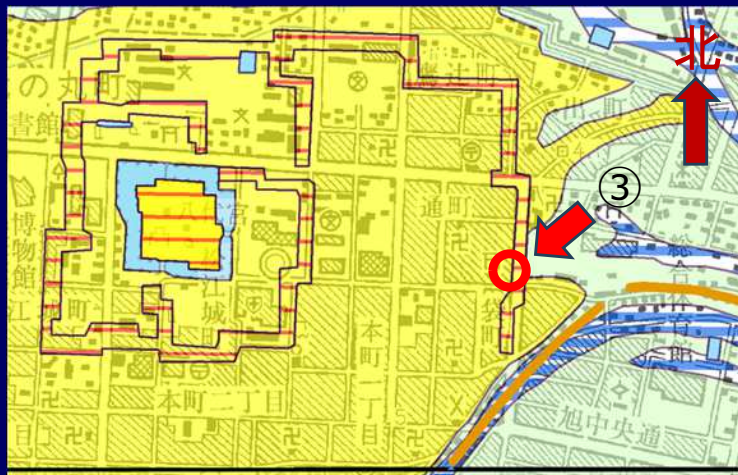
- 八代市の市街地中央部に位置する交差点の角に建つ三階建てビル1階部分が圧壊し上部がそのまま落下。全体が道路側に傾斜している。
- 落下したビルの東面と西面に押し潰された幅広いシャッターの残骸、西面で見られる柱の形状などから、1階部の柱の座屈によるものと推定される。

建物・建造物 ビルの座屈 (2) 八代市通町

③



- 当該地区一帯では、当ビルのみが倒壊し、周辺には被害が見られないことから当該被害地点を治水地形分類図にプロットしてみた。
- 同図によれば、当ビル北面に接する道路は八代城の堀を埋め立てた造成地と考えられ、当ビルは堀の法肩部に位置する。
- これら地盤条件の不連続性により増幅された地震動が当ビルの被害に影響した可能性も考えられる。



八代城周辺の治水地形分類図

(国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）より
抜粋

凡例				
大分類	中分類	小分類	細分類	記号
人工 改変地 形		干拓地		
		盛土地・埋立地		
		切土地		
		連続盛土		

建物・建造物 石垣の崩壊（八代城）

①



②



③



- 八代城石垣の北東雁行（クランク状）部の崩壊。
写真①から③*に続く。

* ③が最北東隅部で北東側から撮影。

建物・建造物 石垣の崩壊（熊本城）

① 加藤神社入口石垣の崩壊



② 櫓方櫓跡付近の石垣の崩壊



- 熊本城では今回の地震により石垣等の40箇所被害が生じたとされている*。

③ 西出丸西側石垣の崩壊



建物・建造物 家屋倒壊 (1) 八代市萩原町一丁目

①



②



国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）

- 新萩原橋が架かる球磨川右岸川堤内地では集中して家屋が倒壊している。
- 宅地は河川堤防天端に擦り付けるように造成された盛土地盤とみられる。

建物・建造物 家屋倒壊 (2) 八代市萩原町一丁目

③



- 家屋が倒壊した区域に対して治水地形分類図を重ねてみた。
- 何れの地点も自然堤防の範囲に含まれている。
- ①は宅地盛土の沈下、②③は近傍側面を通過する旧河道の谷筋方向に引き込まれる形で崩壊している。



凡例				
大分類	中分類	小分類	細分類	記号
低地	山麓堆積地形			
	扇状地			
	氾濫平野			
	氾濫平野	後背湿地		
		微高地(自然堤防)		
	扇状地、 氾濫平野	旧河道	旧河道(明瞭)	
			旧河道(不明瞭)	
	落堀			
				
				

建物・建造物 竜北公園 (1)

①



②



- 竜北公園（氷川町大野）は東部の丘陵から低地にわたって位置する。敷地内を国道3号線が通り、西側の施設と東側の公園の駐車場は歩道橋で連絡されている（写真①）。

③



- 地震で柱で支持された2段式の駐車場の柱脚が上下で座屈し、上部の駐車場デッキが折れ曲がるようにして落下した（写真②）。
- また、歩道橋の階段部分が開口した（写真③）。

建物・建造物 家屋傾斜・石壁亀裂 八代市鏡町

①



②



- 電柱と比較して家屋が左側に傾斜している（写真①）。
- 鏡川左岸側前腹付け部の境界に亀裂（写真②）

建物・建造物 灯籠・石碑倒壊(1) 八代市鏡町貝洲 加藤神社

①

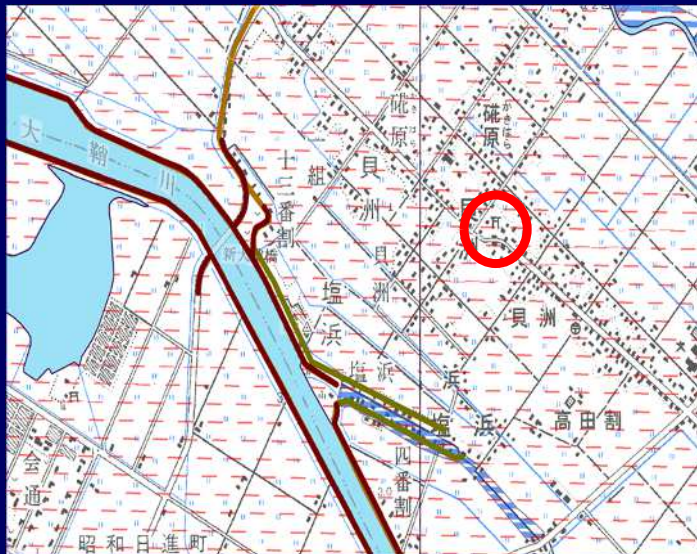


②



- 境内に奉納されている古い灯籠・石碑が倒壊した。比較的新しいものや社殿の被害は見られなかった。

③



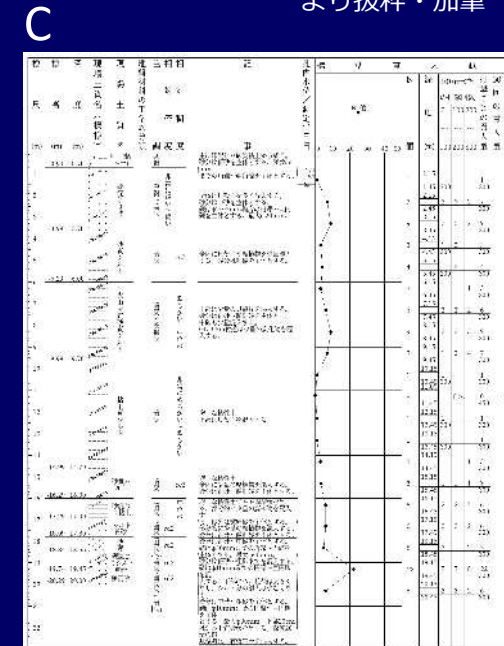
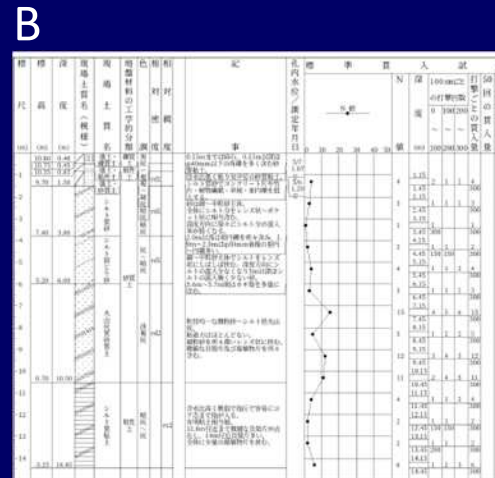
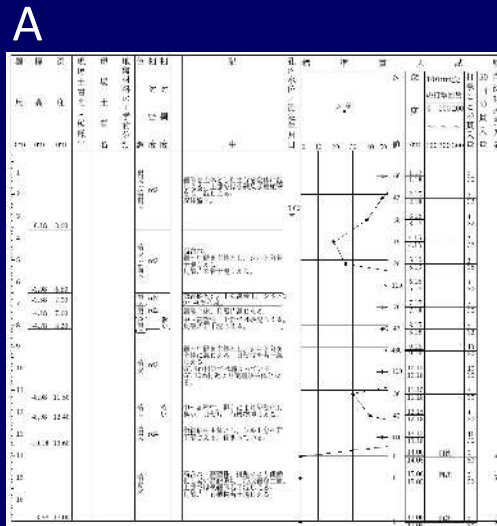
建物・建造物 灯籠・石碑倒壊 (2) 八代市鏡町貝洲 加藤神社

- 当該地一帯は古くは1805年（文化3年）より永い年月に亘って構築され続けてきた広大な干拓地である。神社近傍周囲の柱状図A～Cを示す。
- 神社のある市街地は比較的硬質(柱状図A)であり、周囲を軟弱地盤(柱状図B,C)である田畑が囲む不均一な地盤である。
- 防災科学技術研究所の震度分布（当資料冒頭）では一様に震度6強であった。一方、現地を見た限りでは市街地とその周囲では被害状況に差異が見られ、局部的に揺れが異なっている印象である。



貝洲加藤神社と柱状図A～Cの位置図

「国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）」より抜粋・加筆



被害地点周辺の干拓地の地盤柱状図*

* 「国土交通省：国土地盤情報検索サイトKuniJiban」より抜粋・加

ライフライン(上水道) 水道管・道路損壊 宇城市小川町南部田

①



②



図-1 活断層図(都市圏活断層図)*

- 宇城市小川町南部田の日奈久断層帯上(図-1)の道路部において断層変位に伴い、亀裂や陥没などの路面変状が生じた(写真①)。
- 路面変状が大きい箇所では、埋設上水管の断裂が生じた(写真②)。

地盤災害(液状化) 噴砂 県営八代運動公園

①



②



国土地理院ウェブサイト電子地形図を編集

- 県営八代運動公園 入口車止め支柱部の噴砂（写真①）。シルト分32.4%, 粘土分1.2%でシルト分が多く均一な細粒分質砂である。
- このほか園内の随所で噴砂跡が確認された（写真②）。

地盤災害(斜面) 斜面崩壊

八代市上片町 市営墓地裏

①



- 八代市上片町市営墓地裏の旧崩壊地から土砂が流出し、下方の墓地や水路に土砂が流入した（写真①）。
- 八代市大島町大島公園内の露岩の一部が崩落した（写真②）。

②



地盤災害(斜面) 表層崩壊 長崎県島原市眉山

- 長崎県島原市の眉山において、表層崩壊（表層剥離）が発生した。



2018年撮影

2026年7月30日撮影

地表地震断層変状 妙見第一橋付近

①



②



③



④



- 妙見第一橋から伸びてくる地表地震断層と考えられる地割れ。(写真①)
- 凸型に圧縮された道路。舗装が圧縮され、盛り上がった(写真②～③)。
- 九州自動道の下を走る道路の亀裂(写真④)。

地表地震断層変状、農業用施設 不知火幹線用水路

①



②



表層地震断層線*と調査位置

- 今回の地震で用水路等の農業用施設が多数被災し、国営八代平野農業水利事業で設置した不知火幹線用水路では複数箇所が損壊した。
- 写真①／水路及び隣接する道路の損壊
(九州自動車道妙見第一橋被災箇所の下方向)
- 写真②／水路の損壊
(九州自動車道片野川橋被災箇所の下方向)

*「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

ため池 高倉ため池（北部田水園公園） 宇城市小川町北部田

- 今回の地震で生じた地表地震断層の近傍に位置する高倉ため池では、堤体の変状及び隣接する道路の亀裂・隆起等が発生。

*「国土地理院 令和 8 年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆



① 堤体の損傷



② 堤体の損傷



③ 法尻道路舗装面の隆起



「国土地理院：地理院地図（令和8年熊本地震後の正射画像）」より抜粋・加筆

④ 道路側溝の隆起

